国際石油開発帝石株式会社
INPEX CORPORATION

平成 26 年 7 月 23 日

各　位

会社名　国際石油開発帝石株式会社
代表者名　代表取締役社長　北村 俊昭
（コード番号　1605　東証第一部）
問合せ先　広報・IR ﾕﾆｯﾄｼﾞｪﾈﾗﾙﾏﾈｰｼﾞｬｰ　橘高 公久
電話番号　03-5572-0233

当社社員寮「直江津東雲寮」エンジニアリング協会主催「平成 26 年度 第 6 回エンジニアリング奨励特別賞」の受賞について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、新潟県上越市に建設した当社社員寮「直江津東雲寮（なおえつとううんりょう）」（以下、東雲寮）が、このたび一般財団法人エンジニアリング協会(※)（以下、エンジニアリング協会）が主催する「平成26年度第6回エンジニアリング奨励特別賞」を受賞しましたので、お知らせいたします。

(※) エンジニアリング協会は、産・学・官の協力のもと、エンジニアリング能力の向上、技術開発の推進など幅広い事業を行うことを目的にエンジニアリングに携わる多数の企業により1978年に当時の通商産業大臣の認可を得て発足されたものです。エンジニアリング活動の振興を目的に、同協会では将来のエンジニアリング分野で商業化が期待される先駆的技術に対して「奨励特別賞」を設け、年に一度表彰しています。

「東雲寮」　外観

東雲寮は、先進的なエネルギーシステムを搭載し、また災害発生時の緊急事態において周辺住民に開放する施設として2013年4月に竣工しました。東雲寮に採用した取り組みとして、太陽光発電の導入やリチウムイオン蓄電池を通じた昼夜電力の最適化、天然ガスコージェネレーションシステムを導入して天然ガスを主体にしたエネルギー効率の最大化を図るなど、一般的な電気設備を導入した同様の施設と比べて、CO2排出量の3割以上、購入電力の約9割をそれぞれ削減するといった環境面での取り組みに加え、大規模災害発生時の電力ガス遮断時における地域住民への

施設の開放を念頭に、軽油燃料による非常用発電機及びボイラーを備えるなど地域コミュニティーに最大限配慮するなどが挙げられます。

エンジニアリング協会からはこうしたさまざまな取り組みが将来のエンジニアリング分野で実用化が期待される先駆的技術として評価され、このたびの「省エネ環境配慮型施設建設プロジェクトチーム」として「平成26年度第6回エンジニアリング奨励特別賞」の授与に至ったものです。

当社は、当社中長期ビジョンで示した成長目標の一つとして、「再生可能エネルギーへの取り組み強化」を掲げており、今回の受賞は当社のエネルギーシステムに関する先進的な取り組みが高く評価されたものです。当社は今後とも社会に貢献する総合エネルギー企業として、再生可能エネルギーへの取り組みを強化してまいります。

以上

参考1:　東雲寮に採用された具体的な取り組み

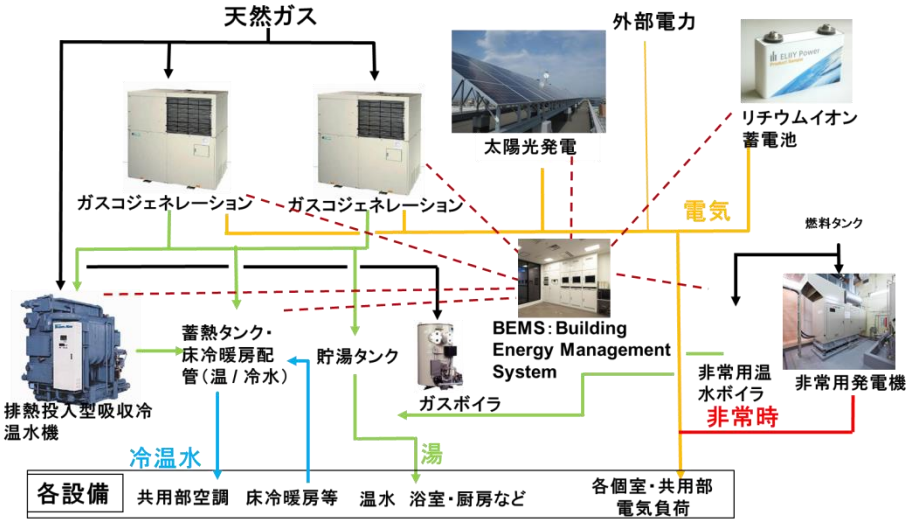
① 日中、太陽光発電による電力が建物内に供給。電気が不足する場合は、天然ガスエンジンコージェネレーションシステムが逐次起動し、電力を供給。余剰な電力があれば、リチウムイオン蓄電池に充電され、夜間ピークカット放電する。外部電力は、主として需給微調整に利用。

② 天然ガスコージェネレーションシステムにおける排熱を温水として回収し、排熱投入型吸収冷温水機により冷水が供給され、夏季の床冷房を行う。また冬季は温水が直接暖房用に供給される。

③ 天然ガスの供給停止に備えて、軽油燃料の非常用発電機とバックアップ温水ボイラーの設置（災害時等の施設の機能維持を目的に停電時自立運転機能の導入）

④ その他の取り組み：

- 建物全体のエネルギー管理を一元的に行いエネルギー利用の最適化を図る遠隔監視機能付エネルギーマネジメントシステム（BEMS：Building Energy Management System）の導入
- 断熱性能の向上および自然換気ルートを確保することでエネルギー需要を低減化



エネルギーフロー図

参考2: 当社が取り組んだ「天然ガスの液体燃料化技術（JAPAN－GTLプロセス）実証研究プロジェクト」についても「平成26年度第6回エンジニアリング奨励特別賞」を受賞しました。詳しくは、本日付プレスリリースをご参照ください：
http://www.inpex.co.jp/news/pdf/2014/20140723-b.pdf